

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 7月17日

【評価実施概要】

事業所番号	0871900445		
法人名	株式会社 ほーむけあしやま		
事業所名	グループホーム 感感		
所在地 (電話番号)	茨城県牛久市東大和田312-2		(電話)029-878-3235

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年7月17日	評価確定日	平成19年12月26日

【情報提供票より】(平成19年6月28日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 5 月 21 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 14 人, 非常勤 1人, 常勤換算	13.95人

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要

利用者人数	17 名	男性	6 名	女性	11 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	8 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 78 歳	最低	72 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	上柏田クリニック ・ つくばセントラル病院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大きな広葉樹の林の中に和風の旅館を思わせるような建築で非常にのんびりした雰囲気がある。建物の外壁が無く非常に開放的な建物になっている。居室の窓は、足元から天井までの大きな窓で利用者は、居室から自由に出入り出来るようになっている。ホームは2ユニットで、四角く廊下で互いのユニットを自由に出入りできるようになっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 改善点として地域間交流の課題が提示されており、その改善にスタッフ全員で取り組まれている。運営推進会議の運営や自治会交流など、地域との関連性を強固にすると共に、地域への働きかけ・参加・活動を通し地域に根ざしたホーム作りを行っている。現在進行形の改善項目ではあるが、改善点をチームで取り組む姿勢があり、今後のさらなる改善に期待もてる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全体で外部評価の意義を理解し、自己評価への取り組みを行っている。自己評価を職員全体で取り組むことにより記載事項から新たな取り組みを行うなど工夫が見られた。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1度のペースで推進会議を開催されている。家族・職員などの出席で充実した内容が記載されている。その内容は議事録とし保存されている。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族からの苦情や意見は、お手紙箱などを利用し家族からの意見をケアの向上へ反映させる工夫が見られる。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域との関連に関し非常に努力され、地域に根ざしたホームへの努力が認められる。今後はさらに地域の他ホームとの連携を持ち、より一層ホーム間での交流が出来るよう工夫されたい。</p>
重点項目④	

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	会社内の理念に基づき、独自の理念が掲げられ職員の理解の下、出来ることへの見守りを大切にし、ケアの提供がおこなわれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや申し送りなどを利用し、管理者から職員へ理念への取り組みに対し言葉かけを行い、理念が職員に浸透するように工夫されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域への広報回覧を行い、地域への啓発を行っている。自治会への参加は、今のところ実現されていないが、現在の取り組みを継続することで今後自治会への参加が期待される。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を管理者と職員間で共通理解し、自己評価に取り組まれている。職員が自己評価に積極的に参加することで、新たなケアへの気付きが得られたなどホーム全体で熱心に取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度のペースで推進会議が行われている。その内容を議事録とし保存されている。また家族や参加者からの意見を積極的に受け入れケアの向上にとりくまれている。		

茨城県 グループホーム感感

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	月に1度介護相談員の来所を受け入れたり、意見交換を行っている。市で開催される、会議や研修などにも積極的に参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	便りや写真入りの手紙などを使い、家族に報告するようにしている。会計に関しては、領収書や出納帳を渡し体調などの急な変化ではその都度電話で連絡するようにしている。		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	説明や意見箱の設置などの工夫があり、家族などの意見を受け入れやすくなっている。	○	意見箱や職員からのヒアリングなど、苦情を受け入れる体制があるが、今後は家族の意見をさらに聴取出来るようアンケート方式など工夫され、家族の率直な意見が聞き取れるよう工夫されたい。
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	離職をさげ、職員の異動を最小限にしている。新しい職員には、利用者の状況を把握して頂き利用者中心でケアが提供できるよう工夫されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	本社で行う社内研修や外部研修が充実している。研修後の報告会なども議事録にされ職員間に啓発されている。また外部研修は出勤扱いとし職員が研修に積極的に参加出来るよう工夫されている。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	市の開催する集会などへ積極的に参加しグループホーム間での交流を始めている。またその中で積極的に情報交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所や家族と共に宿泊できるよう配慮し、利用者がスムーズに入居できるよう配慮されている。また利用者の状況に応じ職員の配置調整など柔軟に対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活の中で利用者の出来ることを尊重し見守りの体制を心がけケアを提供している。また利用者から教わるなど利用者の意見を聞き入れケアに反映させている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で利用者の希望や意見を聞き入れケアカンファレンスなどで意見交換しその内容がケアに活かされるよう工夫されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の暮らしの中で利用者の状況を把握し月1度行われる全体会議で職員からの意見を聞き入れプランに反映出来るよう工夫している。また気づきの記録など細かに対応している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は細かく記載され、見直しの時期や目標など職員がいつでも見られるように工夫されており、家族や本人の意見や承諾がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族や利用者の状況に応じ事業所の多機能化を活かし柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診ドクターや地域の総合病院等の連携もあり充実している。また常勤の看護師が在勤しており夜間など緊急時に早急に対応できる体制がある。利用者の安全はもとより夜間職員の不安の軽減にもなっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に利用者又は家族に対し終末期の意見や考え方など考慮し同意書をもらっている。また家族の意見など変化に柔軟に対応し時々確認し同意を得るよう工夫している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者を理解しその人らしい生活の援助を行っている。また個人的な情報なども整理し保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事など利用者個人の時間や状況に合わせ提供している。		

茨城県 グループホーム感感

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力や摂取量を理解し無理のない摂取量を個別に提供している。また月の献立に利用者の意見を反映させている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は、利用者に合わせ各時間に提供している。また拒否傾向のある利用者は、清潔を保持できるよう清拭などでの対応をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の希望や好みを理解しその日の気分や能力状態に合わせて家事や散歩などが行えるようにケアを提供している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物などの外出時は全員に声かけし希望に応じ外出している。また食材などは利用者と確認し足りないものをみんなで買い出しに行くなど、日常の中から役割を提供できるよう工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠は行っていない。居室の窓は足元からの大きな窓で利用者が居室から出入り出来るようにしている。また敷地に囲いがなく非常に開放的な空間となっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署協力の下避難訓練などを定期的に行っている。	○	今後は、災害などに備え食料の備蓄など検討されたい。また夜間の避難など職員の少ない配置の時などを設定した訓練など計画されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録に細かく記載されている。また看護師の指導もあり水分量などを個人で記載し身体状況の把握に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は適度な広さがあり、疎外感が無く家庭的な雰囲気強く感じられた。また畳のスペースなども設置され利用者の思い思いの居場所が確保されていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者個人の馴染みの品が多く配置されその人らしい空間が提供されている。		